

I：4-6の御言葉により、なぜ教会の御霊の一致を熱心に保つべき（：2，3）かの理由が述べられる。：4-6、そして4-16は、教会（「からだは一つ」：4から始まり、：16では「からだ全体は」）についての大切な教理。

新約聖書は、教会の素晴らしさを教え、私達が、この不思議なキリストのからだである教会の一員であり、各器官であることを明らかにしている。

神の壮大な御計画・御目的（1：9-11）は、私達の個人的な救いで終わりではなく、あらゆる国の人々（私達を含む）が、主において、共に一つのからだ（教会）に連なり（3：6）、キリストのからだ（教会）を建て上げ、ついに信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、キリストの満ち満ちた身だけ（御性質）にまで達する（4：12，13）事！そのようにして神の栄光（素晴らしい御性質）を現わす事。

また、：4-6では、御霊、主（御子）、父なる神の事が述べられる。教会は、神聖な三位一体の反映であり現れ。父、子、聖霊なる神が、互いに愛し合う交わりの神、三つにして一つ、一体の神であり、その神の姿、栄光を、教会が互いに愛し合い、御霊の一致（一体とされている姿）を熱心に保つ事によって現わす。：4-6で「一つ」という御言葉が、7回出て来る。7は、聖書では、神聖な数、完全数を示す。ここにある示唆＝教会の一致が、神性の完全な現れである事が分かるように。

II 「からだは一つ」。キリストのからだ（教会）は一つ。

1. 神は、世界を創造されたように、神は教会を新しく創造されました。

神は、ユダヤ人、異邦人、色々な国の人々を単に寄せ集め、教会という集団とされたのではない。隔ての壁が打ち壊され、新しいひとりの人に造り上げられ、両者を一つのからだとされた。

（2：14-16）

からだは、もともになるはじめの細胞から発達し、各器官が出て来る。各部分は、孤立した存在ではなく、有機的につながり、命が通っている。そのように、私達も、主を信じ、御霊によって新しく生まれ、孤立した存在ではなく、御霊によって一つのからだとされた。

2. 教会の一体性の中の多様性。教会は画一的ではない。御霊の生み出される一致は、皆を同じ人にされる事による一致ではなく、豊かな多様性、違いを持つ者達を主において一つとされる一致。

教会は神が造られた人間の体と同じように「一つである」と同時に「多様性」がある。

この両方が聖書の教える大切な真理！

「からだが一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、

その全部が一つのからだであるように、キリスト（キリストのからだ、教会）もそれと同様です」

（Iコリント12：12）。

足、手、目、耳、内臓、血管他、どれも違いがあり、異なった働き、役割がある。

しかし、みな共に一つの体に属している。どれも体にとってなくてはならない器官。

同じ様に、教会の一人一人は、みな違い、異なった賜物が神から与えられ、それぞれに役割があります。しかし、みな共に一つの体（教会）に属しています。

一人一人が主の体である教会にとって、なくてはならない器官、存在。からだの各器官も、

教会の一人一人も相互に支え合う関係にある。ある器官だけ、ある人だけで自分を支えているのではない。

「頭が足に向かって、『私はあなたを必要としない』と言うこともできません」(12:21)。

石が飛んで来た時、足が協力して、よけてくれなければ、石は頭にぶつかり大怪我をする。

親指も他の指も互いに協力するように神が造られた。教会の私達お互いも。

「もし、全部がただ一つの器官であったら」(12:19)、それは、体ではない。

体が体である所以は、様々な器官が全体として有機的に結合し、一体性において体が一つであるという事にある。

各器官は、他の器官との係わり合いから、その意味と本質が決まって来る。

この真理は教会にも当てはまる。すべてのメンバーは、他のメンバーを必要とし、各メンバーは

他のメンバーの働き(愛・祈り。小グループに祈りの支え。祈りのしおりによる祈り合い。

緊急の祈りの支援のメールの配信を見ての祈り)によって支えられている。

「自分の祈りなんか」と思ってはならない。神は私達の祈りを喜び、働き、支えられる。

3. 弱いと見られる器官、見栄えのしない器官について。

「からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。」

(12:22)。

この御言葉を深く理解する時、偏見、劣等感から解放される。教会員の一人一人が大切な存在。

ある時、「私は大切な存在ではない、必要ではない。他の人と比べて、あの人の様にはやれない」と思ってしまう。

大切な事は、人や自分ではなく、神ご自身が、私達一人一人の事をどう思っておられるかである！

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」(イザヤ43:4)。

神の目には、出来る時も、うまく出来ない時も価値は変わらない。恵みへの感謝からの奉仕を神は喜ばれる。

「神は、劣ったところをことさらに尊んで、からだをこのように調和させてくださったのです。

それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いにいたわり合うためです。

もし一つの部分が苦しめば、すべての部分が苦しみ、もし一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜びのです」(12:24-26)。

主の教会の一人一人が、全体の調和を得るために、なくてはならない存在。

神が呼び集められた大切な一人一人。教会において、一人一人の存在、奉仕、祈り支える事の

すべてが関係し合っている。教会は、神に依存し、互いにも必要とし合う、支え合う共同体。

「大ぜいいる私達も、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです」

(ローマ12:5)。

祈り：私達が、教会の一体性と多様性を自覚し、神に拠り頼み、互いに支え合い、御霊が

生み出された教会の一致を熱心に保ち、神の栄光を現わすことができますように。